

スタートカリキュラムをデザインしよう

R元年度：高知県教育委員会

(1) 幼児の発達や学びを理解する

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえる
- ・幼児の発達や学びの姿を把握する

【拠り所となるもの】要領・指針

- ・発達や学びをつなぐスタートカリキュラム
(文部科学省 国立教育政策研究所)
- ・高知県保幼小接続期実践プラン(高知県幼保支援課)
- ・リーフレット「一年生に向かって親子でジャンプ」
(高知県幼保支援課) 等

(2) 期待する児童の姿を共有する

- ・安心して自分を発揮できる子ども
- ・みんなと楽しみながら関わり、好奇心をもつ子ども
- ・思いをふくらませ、考えを広げ、学びに夢中になる子ども

★実施期間を検討する→入学から2～4週間程度★

(3) スタートカリキュラムをデザインするとは

- ①単元の構成と配列→ 単元配列表の作成(実践プラン 冊子：P28、資料P26)
- ②週の計画と時間配分→ 週案の作成(実践プラン 冊子：P29、資料P27～31)
 - ◇なかよしタイム・・・安心感をもち、新しい人間関係を築いていく学習
 - ◇いきいきタイム・・・生活科を中心とした学習活動
 - ◇ぐんぐんタイム・・・教科等を中心とした学習活動

(4) 発達と学びをつなぐために、大切にしたいこと

- ①これまでの子どもたちの育ちや学びを大切にする
 - ・・・「園ではどうだった？」
- ②学級は、子どもと一緒につくっていくもの
 - ・・・〇組、〇組ではどうする？ 〇〇小学校ではどうする？
- ③自分で考える
 - ・・・どうしたらいいと思う？ どうしたいの？
- ④疑問を共有する
 - ・・・いい“はてな”だね みんなに聞いてみたら？
- ⑤一人一人に応じた支援をする
 - ・・・困った子ではなく、困っている子と捉える
- ⑥子どもたちの生活リズムや思考の流れに合った弾力的な時間割の設定をする
 - ・・・登校後、友達を誘い合って自由に遊べる時間や環境づくり
 - ・・・朝の会から1時間目を連続した時間割、幼児期に親しんできた遊びや友達と仲良く交流する活動を取り入れる
 - ・・・10分から15分程度の短い時間で時間割を構成したり、子どもたちの思いや願いの実現に向けた活動を、ゆったりとした時間の中で進めていける

よう、2時間続きで設定したりする

- ・・・子どもたちの興味・関心のあるところから導入し、他教科等の活動へつなげる

⑦話したい、聞きたい雰囲気作りや活動の工夫

- ・・・笑顔、うなずき、視線を合わせる、肯定的な言葉がけ、ありがとう、受容的な応答、興味・関心を大切に、話題・教材・教具の工夫、グループ机 等

⑧全校で1年生の育ちを支援する

- ・・・校長・教職員が入学予定の年長児がいる園に訪問し、子どもの生活（食事・片付け・手洗い・昼食場面など）や遊びの様子を見せてもらい、支援等を引き継ぐ（5歳児保育室の環境で引き継げるものがあれば引き継ぐ）
- ・・・スタートカリキュラム委員会で、今年度の成果と課題をあげる
- ・・・4月初めに全職員でのスタートカリキュラム研修会を行い、1年生の子どもの育ち、関わり方を考えたり確認したりする
- ・・・4月の始業式の全校集会等で、校長が在校生に向けて、1年生の子どもの育ち、関わり方について投げかける
- ・・・支援員等の補助に入る職員にも、関わり方について説明する
- ・・・1年に関係する教職員等は、園に連絡や訪問をし、子どもの3月の姿や親しんだ遊びや歌などを聞き取り、スタートカリキュラムや教室等の環境に生かしていく

⑨個に応じた環境の工夫

- ・・・音声言語だけでなく、視覚に訴える絵や写真の活用をする
- ・・・クールダウンできるスペースやコーナーなどをつくる

⑩スタートカリキュラムの意義を、園や保護者に伝える

- ・・・自校教職員と近隣園の先生との定期的な交流会
- ・・・自校と中学校校区の教職員で、夏休みに保育参観をし、グループで「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する
- ・・・園の懇談会や就学時健診等で、リーフレット「一年生に向かって親子でジャンプ」を使って、説明する
- ・・・旧1年生担任、校長が入学説明会で説明する
- ・・・1年担任が、初回の学年だよりで説明する